

# 流通とSC・私の視点

2012年9月29日

視点(1627)

アメリカのモダン消費の終焉とモノ離れ元年の分岐点年次とは!!

(流通経済編)

アメリカと日本と韓国と中国の消費経済の進化の段階は次の通りです。

	アメリカ	日本	韓国	中国
プレモダン消費	1910年以前	1960年以前	1975年以前	2000年以前
モダン消費	1911～1975年 (65年間)	1961～1990年 (30年間)	1976～2005年 (30年間)	2001～2030年 (30年間)
ポストモダン消費	1976～2000年 (25年間)	1991～2010年 (20年間)	2006～2025年 (20年間)	2031～2050年 (20年間)
ニューモダン消費	2001年以降	2011年以降	2026年以降	2051年以降

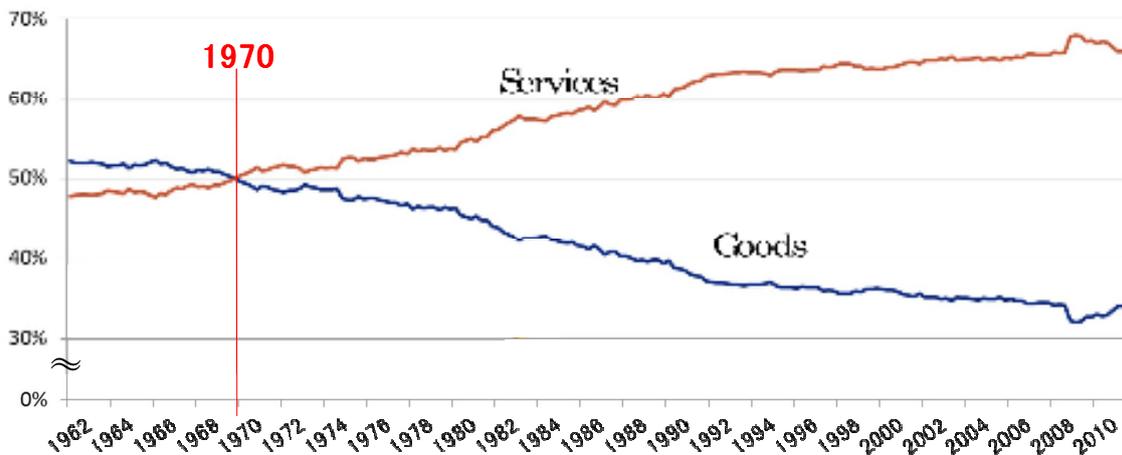
17～18世紀に起こった産業革命(大量生産・大量販売・大量消費による経済の発展システム)は、20世紀型の消費やモダン消費を生み出しました。しかし、モノを買い、消費し、所有し、利用することの連続性に喜びと幸福を感じるモダン消費は、やがてモノを持つことに満足感ができる豊かな時代となるとモノ離れ現象が起こり、モダン消費(20世紀型消費)は終焉します。このモダン消費が、ポストモダン消費(モノ離れした消費後の次のニューモダン消費までの過渡期)に移行する「分岐点年次」を「モノ離れ元年」と呼びます(六車流:マーケティング理論)。

アメリカでは、1970年が統計的に「Goods支出」(モノ支出)が「Services支出」(非モノ支出)を超えたのが1970年であるため、アメリカの1970年を「モノ離れ元年」と呼びます。日本より18年早く(日本は1988年)アメリカはモノ離れ現象が起こりました。

アメリカの1970年代及び1980年代は不況で、アメリカの経済が活気を取り戻したのは1993年からのITと金融が一体化した経済になってからです。

<アメリカの個人消費支出におけるモノ(Goods)・非モノ(Services)別支出割合>

Shares of Personal Consumption Expenditures by Type of Product



出典: U.S. Bureau of Economic Analysis (アメリカ合衆国 商務省 経済分析局)

アメリカは1911年(大正元年)頃からモダン消費時代となり1908年のフォードのT型自動車が出現し、車社会になりました。その後、アメリカはウォール街発の世界大恐慌(1929年)から1945年までの16年間の不況・戦争時代を経て1946年に政治・経済ともに世界の覇権国家になりました。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六車秀之